

琉球大学学術リポジトリ

《英語科》質の高いコミュニケーション能力の育成
(4年次) :
よりよいパフォーマンスにつなげるみとりの工夫を
通して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属中学校 公開日: 2020-08-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上原, 明子, 浦崎, 多恵子, 新崎, 菜々子, 深澤, 真, 大城, 賢 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/46655

質の高いコミュニケーション能力の育成（4年次）

ーよりよいパフォーマンスにつなげるみとりの工夫を通してー

上原明子* 浦崎多恵子* 新崎菜々子* 深澤真** 大城賢**

*琉球大学教育学部附属中学校 **琉球大学教育学部

I 主題設定の理由

1 社会的背景から

グローバル化のさらなる発展やAI（人工知能）など最新技術の飛躍的な変化を受け、新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するとしている。変化の激しい社会で求められる資質・能力は、次の3つの柱で構成されている。「①生きて働く『知識・技能』の習得」「②未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「③学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」である。学んだ知識や技能を再生するだけではなく、さまざまな知識を組み合わせることで考え、主体的に問題解決に取り組むことができるような力が求められている^①。

また、新学習指導要領(2017)の、中学校外国語目標には、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを旨とする」^②と述べられている。

よって、英語科では質の高いコミュニケーション能力の育成をテーマに研究を進める。

2 これまでの研究から

平成28年度から3年間「質の高いコミュニケーション能力の育成ーアクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を通してー」というテーマで研究を進めてきた。研究3年次の成果と課題は、次の通りである。

(1) 成果

- ・単元の学習前と学習後で生徒に自己表現させることで、学びの成長を実感させることができた。

- ・CAN-DO Check sheet を活用することで、生徒は自分の考えを修復、発展させ、最終的なアウトプットにおける質の向上につなげることができた。
- ・この2つの成果を支えたものに単元構想がある。外国語科における「見方・考え方」を踏まえ、単元レベルで「見方・考え方」を設定し単元計画を立てた。

(2) 課題

- ・生徒同士による「気づき」を引き出しにくい場面が見られた。優れたアウトプットを成立させるためには、それを可能にさせるインプットが必要であり、適切な教師の発問などで、生徒の「気づき」を促すような対話活動に継続して取り組む必要がある。
- ・パフォーマンス課題を正確に評価するルーブリックの改善が必要である。見取るべき能力が発揮されているかどうかを正確に評価するルーブリックの工夫が必要であり、尚且つ、それは、CAN-DO リストと連動したものが、より効果的であると考えている。

II 本研究の目的

よりよいパフォーマンスにつなげるみとりの工夫を通して、質の高いコミュニケーション能力の育成を図ることを目的とする。

今年度は、つきたい力を見とるためにルーブリックの質の向上について研究を進める。また、優れたアウトプットに繋げるためのパフォーマンス課題の設定の工夫にも着目していきたい。

III 目指す生徒像

内容のつながりを意識して、自分の考えや気持ちを、目的や場面、状況にふさわしい表現を用いて伝えることができる生徒。

Ⅳ 研究内容

本校英語科では、以下のように研究計画を立てている（表1）。今年度は、過去3年間の研究を踏まえて、みとりの充実に重点を置き、研究を進める。

表1 研究計画

1 年 次	・英語科における「思考力」の定義 ・「質の高いコミュニケーション能力」の定義 ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践の検討
2 年 次	・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践の改善 ・深く考えるための単元構想 ・学習評価の検討
3 年 次	・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた深い学びにつながる授業実践の充実 ・評価
4 年 次	・パフォーマンス課題の設定の工夫 ・つきたい力を見とるためのルーブリックの質の向上 ・本研究のまとめ

1 「深い学び」と「見方・考え方」

「深い学び」と「見方・考え方」の関係について、「答申」(2016)には、『アクティブ・ラーニング』の視点においては、深まりを欠くと表面的な活動に陥ってしまうといった失敗例も報告されており、『深い学び』の視点は極めて重要である。学びの『深まり』の鍵となるものとして、全ての教科等で整理されているのが（中略）、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』である。今後の授業改善においては、この『見方・考え方』が極めて重要になってくると考えられる^③と述べられている。

(1) 外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」

「答申」(2016)では、外国語科での「見方・考え方」を踏まえて、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」として、以下のように整理されている^④。

- 外国語で表現し伝え合うため、
- 外国語やその背景にある文化を、
- 社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、
- コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

また、管(2017)は、端的に「状況や相手に合わせて、総合的に考え、臨機応変に対応できるようにすること」

とまとめている^⑤。そのためには、国際理解や人権尊重の観点から、相手や相手の文化を尊重し、相手を気遣い、相手との良好な関係を保ちながらも、自分の思いや考えを的確に伝えていくことが求められている。このことは、本校英語科が目指している質の高いコミュニケーションの定義や、目指す生徒像に合致する。

(2) 単元レベルでの「見方・考え方」及びパフォーマンス課題の設定

「中学校学習指導要領解説 外国語編」(2017)には、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」と授業改善について次のように記述されている。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること^⑥。

そこで本校英語科では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」の構造を整理し、単元レベルで働かせる「見方・考え方」を設定した。さらに、働かせるべき「見方・考え方」を意識したパフォーマンス課題も設定した。

2 英語科におけるみとりの工夫

(1) 生徒が学びを自覚する実践

これまでの評価は、生徒にとっては、単元終了後にどのような力が身に付いているのか、また、身に付いた自分の力がどのように測られるのかが明確にされないまま知識のみを問うような形式で評価されていることが多かった。単元導入時に、教師が求める単元終了後の姿を生徒へ提示し共有することで、生徒自身が学びの方向性を認識し、知識の量ではなく、活用する力を主体的に身に付けようとする姿勢へと繋がる。また、学習苦手群の学習観に目を向け、生徒自身が成長や学びを自覚化できるような工夫が必要である。できるようになることや使えるようになることを認識することで、学びの自覚化が図れるのではないかと考える。

そこで、生徒にとっては学びを自覚し主体的な学びにするために、また、教師にとっては「学びのみとり」

から指導と評価の一体化及び授業の質的な改善を図るために、「CAN-DO Check sheet」の活用に取り組んでいる。

(2) 「CAN-DO Check sheet」の活用

「CAN-DO Check sheet」は単元の構想を生徒と共有すると同時に、生徒が自身の「学びを自覚すること」を促す上で効果的だと考える。

① 単元学習前の自己表現

単元の学習に入る前の段階で、その単元の BIG QUESTION に関するテーマを与え、表現活動（またはテーマに関する事前の考えの記入）に取り組ませる。この時点では、「できない」「うまくいかない」という気持ちを持つことも、学習意欲につながると考える。

② 単元学習後の自己表現

学習前後におけるそれぞれの自己表現を比較すると、習得した新言語材料の活用も見られ、学びによる成長を生徒自身が実感できるものとなる。

③ 単元全体の流れとパフォーマンス課題の提示

その単元の学習の大まかな流れとともに、ゴールの表現活動を提示する。それらを単元の学習に入る前に提示することで、習得の段階においてもその先にある表現活動を意識しながら、主体的に取り組ませることができる。

④ 生徒の学びのまとめ

毎時間の学びを自分の言葉で表現させる。生徒が自分の学びを振り返ることができると同時に、教師も生徒の言葉を通して、生徒の学びを確認し、教師自身の指導がどうであったかを確認しながら評価をすることで、指導と評価の一体化を実践することができる。

(3) パフォーマンス課題とルーブリック

① 習得した知識を活用する場面を大切にしたパフォーマンス課題

単元の目標を教師と生徒で共有するだけでなく、毎時間の活動を有機的に関連づけた授業実践を行うことが、質の高いアウトプットに繋がると考える。1時間1時間の積み重ねが、最終的に表現するパフォーマンスへと繋がることが大切である。また、知識を「知っている、理解する」だけではなく、「何ができるか、どう使うか」を発揮できるようなパフォーマンス課題の設定が必要である。習得した知識を活用する「場面」を

大切にしたパフォーマンス課題を設定することで、「見方・考え方」を働かせることにもなる。今年度は、パフォーマンス課題の設定の見直しも行った（表2）。

なお、パフォーマンス課題を作る際には、前年度研究と同様、西岡(2016)を参考に作成している。

表2 パフォーマンス課題例

	パフォーマンス課題 = CAN-DO =
1年 My Project ①	留学先の学校で自己紹介をしよう！ ＝まとまりのある自己紹介を書くことができる＝
2年 Program6	高校入試の面接で将来の目標&取り組みを効果的に伝えよう。 ＝「したいこと」「取り組み」など自分の考えを表現できる。＝
3年 Program6	『ウェルカムんちゅ』として日本や沖縄のことについて外国人に紹介しよう！ ＝詳しく情報を説明し、伝えることができる＝

② 「使える」レベルのルーブリック

単元構想の「期待する姿」に基づきながら、ルーブリックを作成する。ルーブリックを作成することによって、目指す生徒像が明確になり、単元設計において、目指す生徒像を具現化していくことができる。

昨年までのルーブリックでは、例えば『関係代名詞を用いた文を含むこと』というような、文法などの形式面が混在したものとなっていた。生徒が単元で習得した文法項目を用いて表現するだけではなく、自分の表現したいことと学習内容を結びつけながら意見表明することができるような評価項目の工夫が課題に挙げた。また、生徒にとって「できるようになること、使えるようになること」が認識できる評価文の提示をすることが、学びの自覚化を図る上で大切だと感じた。

そこで今年度は、「使える」レベルのルーブリック作成のため、以下の3点の改善に取り組む。

1つ目は、評価項目を2つ程度に絞る。みとりの視点を絞ることで、身につける力が明確になる。

2つ目は、評価文に文法項目の縛りを入れない。文法項目を単に学ぶだけにならないよう、生徒自身で表現の工夫を吟味できるようにする。

3つ目は、評価文の表現を統一し、できるようになることを提示する。何が評価のポイントになるのか、教師だけでなく生徒にとっても分かりやすくする。

V 授業実践

1 1 学年実践事例 (11 月実施)

本単元では美ら海水族館の魅力を伝えるために、伝える内容を選択したり自分の考えを加えたりすることが必要であることに気づき、その魅力を表現する授業実践を試みた。

(1) 主題

PROGRAM7 The Wonderful Ocean (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂)

(2) 目標

美ら海水族館の黒潮の海の水槽についての情報を整理し、相手が魅力的だと感じる情報を考え、口頭で伝えることができる。

(3) 本実践の目的

地域の魅力について相手を意識し聞き手が魅力的だと感じるような情報を考え表現することである。また、自分たちが住んでいる沖縄の良さに目を向け、英語で情報を発信できる土台作りをすることが本実践の目的である。表3は本単元の計画である。

表3 単元計画

単元を貫くゴール Big Question 「沖縄の海の魅力を伝えよう！」	
	学習内容
第1 ～6時	シャチウォッチングでの会話から、海洋生物の生態を説明する表現を学習する。
第7時 (前時)	魅力を伝える相手についての情報を得る。エキスパート活動では、3つのグループに分かれ、それぞれで主要な生物についての情報、黒潮の海の水槽の情報、効果的な写真の使用についての情報を得る。
第8時 (本時)	ジグソー活動～クロストーク ジグソーグループでエキスパート活動の情報を共有し、キーワードを用いて黒潮の海の魅力をどのように伝えればよいのかグループで話し合い英語で表現する。
第9 (次時)	ジグソーグループで、キーワードと写真を用いて黒潮の海の水槽の魅力を伝える。 事後活動：個人で黒潮の海の水槽の魅力の紹介文を書く。

(4) 実践内容

① 単元で働かせる「見方・考え方」

英語でのコミュニケーションを豊かにするために、

地域の自然に関することを、相手意識を持ってより効果的に伝えることに着目し、まとまりのある英文で表現すること。

② 単元における「学習課題」Big Question(BQ)

BQ「沖縄の海の魅力を紹介するには？」に対する解を、仲間と話し合い、思考しながら考えを深めていく学習を計画した。ペアやグループ活動の中で表現したり意見交流したりする機会を4月から段階的に増やし、内容のレベルを上げるようにしている。

本時の最後に生徒が上記の課題に対して、口頭で表現できるようになってほしい、期待する解は次の通りである。

期待する解：
Hello! This is Kuroshio tank in Churaumi Aquarium.
It's 27 meters long and 10 meters high. ②It's very big.
You can see a lot of fish. ①I like whale sharks in the tank.
②They are very popular. They have a big mouth.
They eat planktons and small fish. ①You can see their lunch time at 3 o'clock.
②Please enjoy the Kuroshio tank.

その際、質の高いコミュニケーションのポイントは次の通りである。

【期待する解Aのポイント】

- ・客観的な事実を伝えるだけでなく、①自分がおすすめしたい事柄について②自分の気持ちなどを含め詳しく述べている。
- ・写真を効果的に使用している。

③ パフォーマンス課題の工夫

パフォーマンス課題では毎単元、やりとりや表現を伝える相手を明確にして、実際に起こりうる状況を設定した。本単元では、美ら海水族館に興味を持っている海外在住のALTの姪っ子に、水族館の魅力をSkypeで伝えるという設定であった。ビデオレターや写真を活用して現実味を与え、子どもたちのモチベーションが上がるように工夫した。

④ ルーブリックの改善

表4のように評価する項目を2つに絞って生徒に提示した。声の大きさなど基本的なコミュニケーションの関心意欲態度に関することは、4月から段階的に項目を変えていき、評価対象でなくても意識できるようにテスト前に「前はアイコンタクトができていたのに今回も維持しよう。」などの声をかけるようにした。また、評価文は表現を統一することで、何が評価のポイントとなるのかがわかりやすくなるようにした。

表4 Program7 ルーブリック

内容のわかりやすさ（観点：表現）	
A (10点)	時間内に、黒潮の海の魅力をわかりやすく伝えることができた。
B(8)	少しポーズが入ったが、時間内に黒潮の海の魅力を伝えることができた。
C(5)	とぎれたり、長いポーズがあり時間内に黒潮の海の魅力をあまり伝えることができなかった。
D(1)	ほとんど伝えることができなかった。
伝え方の効果（観点：関心意欲態度）	
A (5点)	写真やジェスチャーをととも効果的に使って伝えることができた。
B(3)	写真やジェスチャーをある程度効果的に使って伝えることができた。
C(1)	写真やジェスチャーをほとんど使っていなかったため、あまり効果的に伝えることができなかった。
D(0)	写真やジェスチャーを全く使用せず効果的に伝えていなかった。

(5) 実践の考察

① 授業前後の変容（ワークシートから）

生徒の事前と事後のアンケートに書かれた記述内容を、ワークシートをもとに比較する。以下の表5は、2名の生徒の変容である。

表5 生徒による記述例(原文ママ)

生徒A	【事前】 Kuroshio tank is beautiful
	【事後】 Hi, Brooklyn! My name is □.Do you know the Kuroshio tank? Kuroshio tank is very big!! It wide 37m, high 10m! You can enjoy Churaumi Aquarium. 【感想】 英語の読み書きもさらに上達したけど、相手にその「事」を伝える力(ジェスチャーやアイコンタクトなど)がとてつuitaito と思います。ブルックリンさんにぜひ生で水槽を見てほしいです！
生徒B	【事前】 シー is beutifl. シーis ブルー.
	【事後】 美ら海アクアリウム is interesting place. I like whale shark. Whale shark is famous. Whale shark is big. Whale shark is in くろしお tank. くろしお tank is big and many fish is in くろしお tank くろしお tank is beautiful. Thank you. 【感想】 (前略)何より紹介することができたので良かったです。でも使う単語を覚えるのが難しく、紹介なんかできるのか心配でしたが、自分の好みと照らし合わせて紹介できて良かったです。(後略)

生徒Aは定期テストでは平均点以下、生徒Bは平均点の生徒である。事後において、生徒Aは文法的な誤りは見られるものの、相手を意識した表現（自己紹介や相手がイメージしやすいように数字を入れる等）が

入っていた。生徒A,Bとも、事後ではルーブリックを意識して水族館の水槽の魅力を伝えようとしている。また、ルーブリックにある「伝え方の効果」についても意識して取り組んでいることが感想から伺える。事実の説明だけでなく、Interesting place~, I like~や You can enjoy~などの表現を使って自分の気持ちを相手に伝えようとしていることが読み取れる。

② 授業デザインの振り返り

1年生であることを考慮し、多くの単元において評価は内容や流暢さに重点をおくようにした。その結果、「間違いを怖がらずに話すことができた。」というアンケート項目で、73%の生徒が肯定的な回答を選択しており、間違いを恐れず、まず英語を使って表現しようという傾向が伺えた。本単元のパフォーマンステストでは、「内容のわかりやすさ」で119名中55%(67名)がA、44%(51名)がB、「伝え方の効果」では57%(69名)がA、41%(49名)がB、と98%の生徒がB以上の評価を得ている。

パフォーマンス課題やルーブリックは、1年生の初めから少しずつ難易度を上げるようにした。最初は自分の言いたいことが表現できているかが評価項目であったが、単元が進むにつれ課題の中で相手を意識する必要性を高めていった。また、パフォーマンステストで相手意識を持つことができていなかった時は、別の単元でその問題を解決できるような活動を設定した。その結果、その後のパフォーマンステストで相手意識を持った表現が見られるようになった。

パフォーマンス課題は人物や地元の紹介、やりとりなど、他の学年でのパフォーマンス課題の土台となることを意識して設定することができた。

③ 実践を踏まえた授業の改善点

話す課題が多かったので書くことが苦手な生徒も仲間と助け合いながら表現活動に取り組むことができていた。一方、書くことに苦手意識を持つ生徒も多数存在する。話したことを書かせてはいるが、引き続きの指導や活動の工夫が必要である。

ルーブリックに関しては、生徒に力を注いで欲しい項目で、点数に重み付けを行った。A,Bの評価を得た生徒の割合が高かったが、さらなる表現力の向上を目指すルーブリックを模索したい。3年間のパフォーマンス課題や評価項目を検証し、課題の難易度やバランスを考えることで精度が高まるかもしれない。

2 2 学年実践事例（6 月実施）

(1) 主題

Program3 What Can We Do for Others?
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂)

(2) 目標

チャリティー活動について学び、たとえ規模は小さくとも自分たちにできる社会に貢献について考える。同時に、義務や命令や必要性についての表現も学び、自分の考えを簡単な英文で表現できるようにする。

(3) 本実践の目的

途上国の現状や諸問題への理解を深め、国際理解・社会貢献についての考えを英文で表現することができる。さらに、「自分たちにもできる活動」「自分たちのあり方」を視点にすることで「深く考える」場面が生まれ、「思考力・判断力」の育成につながると考える。また、今後、人権問題や、環境問題などが教科書で扱われるときの基盤となる考えになってほしいと考え、単元計画を立てた（表 6）。

表 6 単元計画

単元目標 BIG QUESTION：「私にできる社会貢献は？」 パフォーマンス課題：私にできる「社会貢献」を SNS に投稿しよう！	
	学習内容及び C の生徒への手だて Can-Do
第 1 時	社会で今抱えている問題について考える。 C：どこで何が起きているのか概要を掴ませる。
第 2 時～ 第 7 時	教科書本文から社会貢献について読みとる。考えを表現する際に使える言語材料を学ぶ。 C：既習事項と比較し特徴やきまりに注目させる。
第 8 時 (前時)	社会貢献について簡単な英文で考えを表現する。[知識構成型ジグソー法①エキスパート] C：級友との話し合いから記述できる所を探すように促す。
第 9 時 (本時)	自分たちの考えを具体的に英文で説明する。 [知識構成型ジグソー法②ジグソー活動&クロストーク] C：ジグソーメンバーの考えを参考にしよう促す。
第 10 時 (次時)	パフォーマンス課題に取り組む。 C：ジグソー活動やクロストークでのアイデアを参考にしよう促す。

注) C は、学習苦手群

(4) 実践内容

① 単元で働かせる「見方・考え方」

外国語で表現し伝え合うため、身近な社会問題を理

解し、私にできる社会貢献は何かを考え、思いや意見を英語で表現すること。

② 単元における「学習課題」Big Question (BQ)

Big Question に対する解を、仲間と話し合い、思考しながら考えを深めていく。知識構成型ジグソー法やグループ活動を通して、BQ を意識しながら思考（学び）を重ね、より良い解に向かっていく。最終的には自分の考えを再構成し、質の高い表現に繋げていく授業実践を試みた。

本単元の最後に生徒が上記の課題に対して、話せるようになって欲しい期待する解は次の通りである。

期待する解：
I have two ideas.
First, I should learn more about food problems. I think we should not forget people in trouble. We must help each other.
Second, I will buy local food. We should not buy too much food.
〔理由〕困っている人々を助けることにつながっている。また、自分の身近な事から行い、食糧問題を意識することが大切。

その際、質の高いコミュニケーションのポイントは次の通りである。

A の要素：
①「私にできる社会貢献」について、自分の考えを具体的に説明している。（本時）
～次時は、以下の 3 点をプラス～
②必要性や義務、自分の考えなどを 5 文程度の英文で表現しており、相手意識をもった内容になっている。
③文法・語彙の使用が正確で、文構造も意識した内容である。
④クラスメイトが聴いても分かりやすい内容である。
*5 文程度の文章で構成しているが、上記の要素がほとんどない場合は B。

③ パフォーマンス課題

これまでのパフォーマンス課題は「私にできる社会貢献を英文で書こう」というような、何のために書くのかという「目的〔必然性〕」や「場面」や「状況」が考えにくい設定をしていた。そこで、今年度は、パフォーマンス課題を『私にできる「社会貢献」を SNS に投稿しよう！』とし、単元における「期待する生徒像」CAN-DO を「必要性や義務、自分の感想や意見・考えが表現できる」、と設定しなおした。

④ ルーブリックの改善

ルーブリックの観点が多いことや、単元で働かせる「見方・考え方」がルーブリックに反映されてないという課題を改善し、以下に示すルーブリックを生徒へ事前に提示確認した（表 7）。単元後に身についてほし

い姿を教師と生徒で共有して授業に臨めるようにすることで、学習苦手群の生徒にもゴールのイメージが持てるようにした。また、評価項目を2つに絞り、評価文の表現を統一することで生徒にとってもポイントが分かりやすくなるような工夫を心がけた。

表7 パフォーマンステストにおけるルーブリック

〔表現〕 内容	A	「私にできる社会貢献」について、自分の考えを具体的に分かりやすく説明し適切である。5文以上の英文で表現しており文構造も意識した内容になっている。
	B	「私にできる社会貢献」についてについて、自分の考えを概ね説明できている。4文程度の英文で表現している。文構造には、工夫が必要。
	C	「私にできる社会貢献」についての説明が不十分である。3文以下。
〔知識〕 文法・語彙	A	文法・語彙の使用が正確で、相手にわかるように内容を伝えることができています。
	B	文法・語彙の使用に誤りが見られるが、内容の伝達において大きな問題はない。
	C	文法・語彙の使用に多くの誤りがあり、内容の伝達が難しい。

(5) 実践の考察

① 授業前後の変容（ワークシートから）

本単元での学習を通して、「社会貢献」について深く考え、自分にできる社会貢献について、多くの生徒が「自分ごと」として捉え、英語で表現できるようになったことを見とることができた。

パフォーマンス原稿を本時の活動の事前と事後の原稿の記述をもとに比較する。表8は、2名の生徒の変容である。生徒Aは、単元テストや定期テストなどでは平均点、生徒Bは平均点以下の生徒である。どちらも文法的な誤りはあるものの、文法・語彙の使用において、「内容の伝達が難しい」というレベルではない。また、表現（内容）面においても、自分にできることや自分の考えを概ね説明できている。事前に示したルーブリックを意識して取り組んでいることが伺える。

表8 パフォーマンス原稿例

生徒 A	【事前】 I can give feed for African children.
	【事後】 I'm going to tell you about hungry people. Poor people always be hungry. But rich countries throw away a lot of food every day. So we must not throw away a lot of food every day. I must not buy unnecessary thing for hungre people.
	【考え・思い】 豊かな国々は食料をむだにしているので必要な分だけ

	買うようにしたいです。自分も今自分にできることをやろうとする！
生徒 B	【事前】 I think that hungry children.
	【事後】 This is my idea. First, we can sell CD and any books after send money NPO. Second, we can send money NPO. Sard, we should stop wasting food.
	【考え・思い】 まずは自分にできることからやるべきだ！

② 授業デザインの振り返り

単元導入時の before の考えから、生徒が「社会貢献」に対して、募金やボランティアという漠然としたイメージしかない実態があり、「自分たちにできること」を深く考える材料として今回の授業を設定した。パフォーマンス原稿には、教科書やジグソー活動での表現を一部引用している文もあるが、文の構成や「考え・思い」を大事に表現しており、事前の活動で書けなかった「思い」が書けるようになっていたことが生徒の自信にも繋がっているようだった。本単元のパフォーマンステストでは、77名中、「表現」において、79%（61名）がA、18%（14名）がBであった。また、「知識」の分野では、38%（29名）がA、62%（48名）がBとなり、C評価の生徒は一人もいなかった。

英語の表現を知っているだけでなく、取り扱うトピックに対する知識や自分自身の考えを整理することも、学年が上がるにつれ、必要となる。シンプルな表現方法で、伝えたいことをどう表現するか、深く考えている様子が授業の中で見られた。

③ 実践を踏まえた授業の改善点

「書くこと」は、英語を得意とする生徒でも苦手分野として多くの生徒が挙げている。実際、単元テストや定期テストにおいても「聞くこと」「話すこと」の分野に比べて、得点のバラつきが大きかったり、無答率が高くなったりする傾向がある。また、伝えたいことをアウトプットする力と習得している語彙数に差があり、もどかしさを感じている生徒もいた。伝えたい場面設定や、表現方法をスモールステップで積み重ねていくことで、「書くこと」への自信を持たせたい。

今回のパフォーマンステストにおけるルーブリックは、「書くこと」への評価ではなく「支援」の視点を大切に作成した。観点は2つに絞ることができたが、ABCの3段階評価がいいのか、ABCDの4段階で評価したほうがいいのかは、検討が必要な部分である。

3 3 学年実践事例 (11 月実施)

(1) 主題

My Project⑧ 日本文化を紹介しよう
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 開隆堂)

(2) 目標

日常的・社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて考えたことや、その理由などを簡単な語句や文を用いて表現することができる。

(3) 本実践の目的

今までに学んできた様々な見方や考え方を生かし、どの国・どの地域から来た人に対しても「おもてなし」ができるようになるにはどうすればいいか、英語表現を通してそのアイデアをアウトプットにつなげていくことが本実践の目的である。表 9 は本単元の計画である。

表 9 単元計画

単元を貫くゴール Big Question 『ウェルカムんちゅ』として沖縄を紹介するには？	
	学習内容及び思考を誘う問いかけ Can-Do
第 1 時	伝統行事の紹介の方法を学び、日本や沖縄の文化を紹介してみよう。
第 2 時 (本時)	【知識構成型ジグソー法】 インドネシアから来た観光客にとって魅力的な沖縄の観光を提案しよう。
第 3 時 (次時)	インドネシアの人々にとって魅力的な沖縄の観光を伝えるプレゼンを考えよう。
第 4 時	事後活動：「私のできるボランティアについて」 まとまりのある英文で表現する。
この後	(中学校卒業までに) 社会問題への基盤形成

(4) 実践内容

① 単元で働かせる「見方・考え方」

人種・民族・宗教・習慣の異なる人々に沖縄をどのように紹介したら魅力的に伝わるかという視点で紹介する内容を考え、相手を尊重・意識した、まとまりのある英文で表現すること。

② 単元における「学習課題」(Big Question)

Big Question 『ウェルカムんちゅ』として沖縄を紹介するには？』に対する解を、思考しながら構築できるよう、ペアやグループ活動を中心に意見交流させ、考えを深めていける学習を計画した。

本単元の最終時のパフォーマンスにおいて期待する

解は次の通りである。

期待する解：

①食に対する配慮

食べても大丈夫か相手に確認したり、Halal Food に配慮して沖縄の食を紹介できている。

We have many kinds of delicious food. Do you like sweets? I recommend Beniimo-Tart which is made from purple Okinawan sweet potatoes. In Okashi-Goten, you can get halal sweets. Please try it.

②沖縄のおすすめアクティビティ&観光地

ムスリムの習慣に配慮した提案ができている。

I recommend Umikaji-Terrace. You can see very beautiful ocean. It is near Naha Airport which is placed a prayer room for Muslim people.

There are some prayer rooms in Okinawa. You don't have to worry about praying.

質の高いコミュニケーションのポイントは以下の通りである。

A の要素 (本時)

- ①インドネシア人の観光客の立場に配慮し、その人が必要とする情報について、理由や根拠を具体的にいくつか交えて提案している。
- ②異文化について積極的に理解し、寄り添う姿勢で取り組んでいる。
- ③外国の人が聞いても分かる表現で工夫して伝えようとしている。

③ パフォーマンス課題の工夫

パフォーマンス課題では、生徒が自ら主体的に表現したいと思う場面や相手意識をもって生徒が深く考えられる場面の設定を心がけた。本単元では、ムスリムの観光客という条件の中で、普段の沖縄の良さを伝える方法がいかなる人にも効果的なかを吟味させ、宗教上の制限がある中で、どんな沖縄の食べ物や場所が喜ばれるのか、生徒が試行錯誤して考える様子が見られた。

④ ルーブリックの改善

単元最終時で行われるパフォーマンステストをスピーキングに設定した。スピーキングの内容をみとる「表現」の評価に加え、相手意識をもって伝える生徒のみとりとして「関心・意欲・態度」を評価項目に設定した。ルーブリックは、それぞれの観点で 4 段階の評価とし、評価基準をルーブリックに明記し、課題に取り組む前に目指すべき目標を生徒と共通確認してテストに臨んだ。

以下に示すルーブリックを生徒へ事前に提示確認した (表 10)。

表 10 パフォーマンステストにおけるルーブリック

Delivery (伝え方) [関心・意欲・態度]	
A (5点)	聞き手と適度にアイコンタクトを取りながら、自分の言いたいことを、既習の表現を活用して伝えようとしている。
B(3)	聞き手とプレゼンの間の半分程度、アイコンタクトを取りながら、自分の言いたいことを既習の表現を活用して伝えようとしている。
C(1)	アイコンタクトが半分以下で既習の表現の活用が少なくあまり伝えようとしていない。
D(0)	聞き手の顔をほとんど見ず、既習の表現の活用がない。伝えようとしていない。
Content (内容のわかりやすさ) [表現]	
A (5点)	人種・民族・宗教・習慣が異なる観光客に配慮し、相手が必要とする情報についていくつか具体的に提示し、理由や根拠を具体的にいくつか交えて提案している。
B(3)	人種・民族・宗教・習慣が異なる観光客に配慮し、相手が必要とする情報について提案している。
C(1)	人種・民族・宗教・習慣が異なる観光客に配慮しているが、あまり効果的に伝えられていない。
D(0)	人種・民族・宗教・習慣がことなる観光客が必要とする情報をほとんど伝えられていない。

(5) 実践の考察

① 授業前後の変容（ワークシートから）

生徒の学習前後に書かれた記述内容から学習苦手群 2名の生徒の変容を比較する。表 11 は生徒の学習前後の記述の内容である。

事前では、I recommend Okinawan food. For example, Okinawa soba, Takorice, chanpuru～や we can eat many pineapple too.など沖縄の典型的な食べ物を紹介しているにすぎないが、単元の学習後には there are a lot of Okinawan vegetables, fruits など相手の習慣にあった食べ物をすすめたり、I think Indonesian worry about prayer rooms.などインドネシアの人に理解を示す表現が現れた。

実際、単元前後における「ウェルカムんちゅとして何を大切にすれば良いでしょうか？」の問いに対する生徒の After の記述に着目してみると、生徒 A は『宗教上の問題があるから安心していけるように』といった相手の気持ちを察する文言が見られ、生徒 B は『それぞれの習慣や宗教により尊重された場所を紹介することを大切にすると良い』と相手を尊重する大切さに気づけていた。内容にも具体的な提案や理由・根拠が含まれており、相手が必要とする情報について吟味し伝え方を工夫していることがパフォーマンステストか

らも見る事が出来た。

表 11 生徒によるワークシートの記述例（原文ママ）

生徒 A	<p>【事前】</p> <p>I recommend Okinawan food. For example, Okinawa soba, Takorice, chanpuru and jusi. We called they “Ryukyuryori”. They are very yummy.</p>
	<p>【事後】</p> <p>Have you ever been to Okinawa? There are many wonderful places. First, there is a place of prayer room at Naha Airport, there is also an area to wash hands and feet. How about going to Naha street after that? We call it Naha Kokusai street. I recommend there. Because there are a lot of Okinawan vegetables, fruits and souvenirs. But there is also Haram. So please show this communication sheet to the shop staff. It will be fun if you come to Okinawa.</p> <p>【ワークシートの記述内容（工夫したこと）】</p> <p>実際に提案するように問いかけて、宗教上の問題があるから安心していけるように礼拝所やコミュニケーションシートを教えた。エキスパート B の資料を見せた。</p>
生徒 B	<p>【事前】</p> <p>You should go to Pineapple Park. You can learn about pineapple and Okinawan Plants. Also we can eat many pineapple too.</p>
	<p>【事後】</p> <p>I recommend Naha City. Because there are many Okinawan Halal food restaurant and you can buy Okinawa souvenir gift. Also I have more reason. I think Indonesian worry about prayer rooms. But we have Halal hotel, prayer room in Naha city. Please have fun!</p> <p>【ワークシートの記述内容（工夫したこと）】</p> <p>それぞれの習慣や宗教により尊重された場所を紹介することを大切にすると良い。</p>

② 授業デザインの振り返り

単元ごとに使用する表現方法を限定することはせず、1 学年から学んできた英語表現をどのように使えば効果的か、生徒の発想にまかせてどんな相手にも伝わる描写や説明、相手が必要とする情報が何かを考え、より質の高い内容へとシフトチェンジできるようにテーマの厳選を心がけた。ルーブリックの評価基準を単元導入時に生徒と共有することでゴールが明確になり、普段苦手意識を持っている生徒でも、深まりのある内容でパフォーマンステストにおいて生き生きと力を発揮していた。

③ 実践を踏まえた授業の改善点

苦手群の生徒の表現力をどのように今後更に向上させていくか、表現をみとるルーブリックが苦手群の生徒の学びの自覚を促すガイドラインとなり得る内容だったのか、検証を続け改善していきたい。

V 成果と課題（今後の展望）

1 成果

今年度の研究及び本研究4年間の成果として、特に以下の4点を挙げる。

1つ目は、「目的・場面・相手」を大切にしたパフォーマンス課題の設定である。「単元を貫いたゴール Big Question」に向かって単元全体を通してインプットやアウトプットを積み上げ、単元末のパフォーマンスでの表現に繋げる。パフォーマンス課題では、習得した知識を活用できる具体的な場面を設定した。その際に、単元構想において、「答申」の外国語科における「見方・考え方」を踏まえ、それを基にパフォーマンス課題を設定した。

2つ目は、「使える」レベルのルーブリックの改善である。パフォーマンス課題を見とるためのルーブリックの作成においては、教師だけではなく、生徒にとっても分かりやすい項目や評価文の設定を行った。また、評価項目も絞り、見とるべき能力が発揮しやすいものが作成できた。

3つ目は、学習苦手群の学習観に目を向けたみとりの工夫である。「CAN-DO Check sheet」を活用し、単元の学びを自覚化することに繋げることができた。また、ルーブリックをパフォーマンス課題と共に単元導入時に生徒に示すことで、生徒が自分の学習について、何を発展させ、何を改善すべきかを考え、学習に取り組むことができた。

4つ目は、継続した帯活動の実施である。言語材料（文法事項）を場面の中で理解し、間違いを繰り返しながらも何度も使うことで、定着したり使えるようになったりする。他者とのやり取りを通して生徒自身が自分の考えを練り上げ、表現を何度も修正していける帯活動の実施が、質の高いパフォーマンスへ繋がる肝になっている。

2 課題・今後の展望

今年度は、「よりよいパフォーマンスにつなげるみとりの工夫」を副題に置き、評価についての研究を進めた。

特に学習苦手群の学びの自覚化を促す取り組みにおいては、まだまだ工夫が必要だと感じる。学習時にはある程度表現できるようになったが、しばらく経つと表現できなくなっていた、ということもあり、定着す

るまでには至らなかった。そこで、似たようなトピックでパフォーマンス課題を各学年に設定することで、学びの成長を促すような工夫改善が可能である。1年生の頃にはできなくても、2年または3年で同じようなトピックに取り組むことで、できるようになっていることを実感できるのではないかと考える。また、同じようなトピックでも、ルーブリックの質を少しずつ上げていくことで、本校英語科が目指す「質の高いコミュニケーション能力の育成」にも繋がるはずだ。

ルーブリックに関しても改善の余地がある。評価項目の精選に関しては何度か教科で検討会を行い、3年間を通して成長できるようなルーブリックや単元構想について検討することができた。今後は内容に関して、さらに改善していきたい。単語や文法事項の正確さのチェックに偏らず、それらに少し誤りがあっても、自分の本当に伝えたいことを伝えようとしているか、というプロセスに重きをおいた「みとり」を今後も改善検討していきたい。

さらに今後は、小学校外国語活動との連携を今以上に進め、9年間を見通した質の高いコミュニケーション能力の育成を図りたい。

引用文献・参考文献

- (1) 中学校学習指導要領総則（平成 29 年 3 月告示）
p. 19-20
 - (2) 前掲(1) 第9 節外国語、p. 144
 - (3) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』（平成 28 年 12 月 21 日）、p. 26
 - (4) 前掲(3)
 - (5) 管正隆『中学校教育課程実践講座』、ぎょうせい、2017 年、p. 16
 - (6) 前掲(2)、p. 150-151
- ・琉球大学教育学部附属中学校『研究紀要』第 31 集、2019 年
 - ・西岡加名恵・石井英真『Q & A でよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』、明治図書、2018 年
 - ・山田誠志「中学校の英語はこれからどうなる？どう指導すべき？」『英語教育』2018 年 12 月